

○事業所名	みらてらす朝霞		
○保護者評価実施期間	8年 2月 28日		8年 3月 7日
○保護者評価有効回答数	26	(回答者数)	6
○従業者評価実施期間	8年 3月 31日		8年 3月 31日
○従業者評価有効回答数	8	(回答者数)	8
○事業者向け自己評価表作成日	8年 3月 31日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	こどもの特性や発達段階を踏まえた個別性の高い支援	アセスメントや日々の行動観察をもとに個別支援計画を作成し、運動療法・感覚統合・整体なども組み合わせながら、一人ひとりに合わせた支援を行っている。	支援内容の記録と振り返りを積み重ね、支援プログラムの精度をさらに高める。
2	保護者への説明と日常的な情報共有の丁寧さ	契約時や計画作成時にわかりやすく説明し、日頃の様子や課題も送迎時や面談等で共有することで、保護者との共通理解を大切にしている。	一方的な説明にとどまらず、保護者からの質問や要望をより拾いやすい仕組みづくりを進める。
3	わかりやすく安心して過ごせる環境づくり	スケジュールの視覚化や活動しやすい空間づくりを行い、こどもが見通しを持って過ごせるよう配慮している。保護者からも安心感や満足度の高い評価を得ている。	利用児童の成長や人数の変化に合わせて、空間の使い方や備品配置を継続的に見直す。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域のこどもや関係機関との交流機会が少ない	日々の支援運営を優先する中で、外部行事や地域交流の機会が限られやすく、参加のタイミングも合わせにくい。	無理のない範囲で地域行事や関係機関との接点を探し、参加しやすい交流機会を少しずつ増やしていく。
2	家族支援プログラムや保護者同士の交流機会が十分とはいえない	保護者支援は個別相談や日常のやり取りが中心で、家族参加型の機会や保護者同士がつながる場は多くない。	情報提供の機会、ミニ勉強会、保護者参加型イベントなど、負担の少ない形から実施を検討する。
3	環境整備や職員間共有のさらなる質向上が必要	支援の質は保っている一方で、清掃・換気などの細かな環境整備や、計画共有の方法は継続的な改善余地がある。	チェックリストの活用や共有方法の整理を行い、誰が見ても同じ水準で支援・環境整備ができる体制を強める。